

## IT可視化/セキュリティコンサルティング 活用事例

## 南海電気鉄道株式会社様

IT可視化からロードマップ策定まで  
DXを見据えてガバナンスとセキュリティ強化を推進

南海電気鉄道株式会社  
総務人事グループ  
DX推進部  
課長  
**長谷川 敦史 氏**



南海電気鉄道株式会社  
総務人事グループ  
DX推進部  
課長補佐  
**辻村 賢二 氏**



南海電気鉄道株式会社  
総務人事グループ  
DX推進部  
主任  
**香川 光 氏**



南海システムソリューションズ株式会社  
情報サービス部  
課長  
**原田 誠司 氏**



南海システムソリューションズ株式会社  
情報サービス部  
課長  
**前田 智史 氏**

## 事例のポイント

## 課題背景

- ・グループ一丸となってDXに取り組むためにITガバナンスとセキュリティの強化が必要
- ・専任のIT担当者がいないグループ企業などから漏れなくITに関する情報を集めるのが難しい
- ・鉄道会社に求められるガイドラインに沿ってセキュリティ対策やリスクを評価したい

## 成 果

## ・ガバナンスとセキュリティ強化に向けた重要な一步

グループ会社のIT活用状況を調査して可視化。南海電鉄のリスクも評価した。ガバナンスとセキュリティ強化に向けて明確なロードマップを描くことができた

## ・二段構えで漏れなく情報を収集

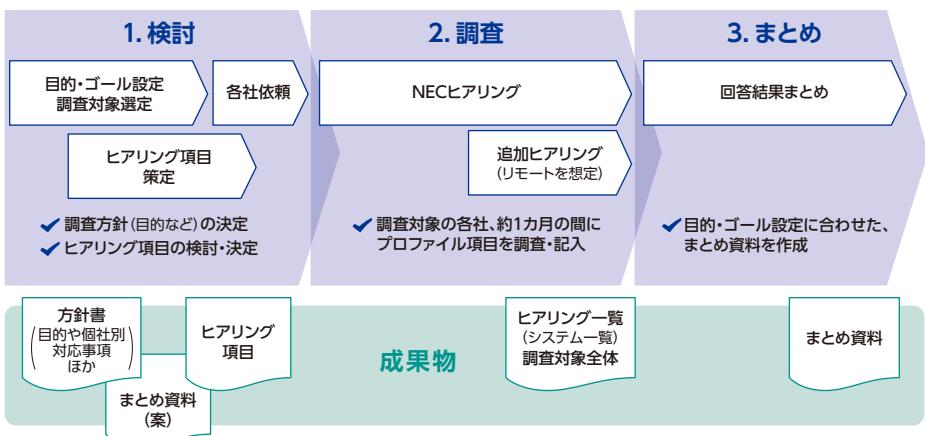
アンケートと現地ヒアリングの二段構えで、ITにまつわる情報を漏れなく収集。専任担当者が不在の難しい状況でもNECがうまく情報を聞き出してくれた

## ・セキュリティ強化に向けてCSIRTを立ち上げ

アセスメントで、できていること、できていないことがはっきりとした。結果を受けてCSIRTの立ち上げやセキュリティ規程の更新を進めている

## 導入ソリューション

## ●IT可視化の進め方



社名：南海電気鉄道株式会社  
本社事務所：大阪市浪速区敷津東二丁目1番41号  
設立：1925年3月26日  
(会社の設立登記：1925年3月28日)  
従業員数：2,635名  
概要：企業理念は「南海は英知と活力で未来をひらきます」。1885年の創業以来、大阪南部から和歌山を中心とした地域で、安全・安心・快適な輸送サービスを基軸とした幅広い事業を展開。沿線地域と共に成長・発展してきた。

URL: <https://www.nankai.co.jp/>



NECが支援したIT可視化の進め方。調査はアンケートと現地ヒアリングの二段構えで実施し、成果物としてレポートを提出した

## 導入前の背景や課題

「攻め」のDXのためにも  
「守り」を固めたい

「総合生活企業」を掲げる南海電気鉄道（南海電鉄）様。大阪から和歌山・高野山方面をつなぐ鉄道事業に加え、運輸、不動産、レジャー・サービス、旅行、ホテル・旅館、ショッピングセンターや駅ビジネスなど、幅広い事業を展開しています。これまで各事業が専門性を活かしながら個別に成長を目指してきましたが、現在は総合力を重視し、グループを横断した取り組みを加速さ

せています。

そのために積極的に活用しているのがデジタル技術です。例えば、鉄道の運行情報などを提供している南海アプリをほかの事業でも顧客接点として活用。鉄道の利用が中心のお客様に新しい提案を行うなど、さまざまな施策を検討しています。しかし、このような「攻め」のDXを加速するためにも取り組んでおきたいことがありました。ITガバナンスとセキュリティの強化です。「これらは、いわば『守り』。守りがしっかりしていなければ、安心して攻めることがで

きません。グループの各社がどのような体制や予算で、どのような機器やサービスを利用し、どのようにセキュリティ対策を行っているのかを詳しく把握し、適切に管理しておかなければ、足並みをそろえて攻めることはできません」と南海電鉄の長谷川 敦史氏は言います。また、同社の辻村 賢二氏も「あの機器の脆弱性が狙われている」といった情報を得ても、南海グループが同じリスクを抱えているのかをすぐに判断できず、調査や対処に多くの人手や時間を費やすことになってしまいます」と続けます。

## 選択のポイント

鉄道会社に求められる  
ガイドラインにも対応

そこで、同社は南海グループのIT活用およびセキュリティの状況を調査することを決定。「情報に抜けや不足があると調査の価値が薄れてしまうため、専門家の知見を借りながら進めることにしました」と長谷川氏は言います。

複数の企業の提案を比較し、最終的に同社が採用したのがNECの提案です。

まず、NECがアンケートと個別ヒアリングという二段

構えの調査に対応したことを評価しました。「複数の企業がアンケートによる一斉調査を提案してくれましたが、規模の小さなグループ会社の中には、専任のIT担当者を置くことができない場合もあります。そのような担当者からアンケートだけで必要な回答を得るのは極めて困難だと懸念がありました。提案の中には、ツールを通じて機器情報を自動収集するというものもあったのですが、それではネットワークにつながっていない機器があった場合に把握できません。一方、NECは最初にアンケートを行い、その内容を踏まえて個別に現地ヒアリングをする、二段構えの調査で網羅性と

精度を高める伴走型の提案を行ってくれました」と同社の香川 光氏は話します。

また、セキュリティの点では、NECが鉄道会社に求められるガイドラインに沿って評価や分析を行うことを約束。そのことも評価しました。「社会インフラの1つであることから、鉄道会社は『鉄道分野における情報セキュリティ確保に係る安全ガイドライン』など独自の対策を求められています。それに沿った対応を行ってみると聞き、心強く感じました」（長谷川氏）。

## 導入後の成果

充実した内容のレポートを  
今後の施策検討に活かす

プロジェクトは「IT可視化」と「リスクアセスメント」の大きく2つに分けて進められました。

まずIT可視化は、前述したとおりアンケートと現地ヒアリングの二段構えでグループ会社のIT基礎情報、コスト関連情報、組織・人材情報、セキュリティ対策情報を収集。「NECと共に作成したアンケートの項目は数百にもおよびました。例えばシステムなら構成はもちろん、画面数や帳票数、保守や運用状況までを調べる精緻かつ大規模な調査です。懸念したとおり、アンケートだけでは十分な回答を得ることが難しかったのですが、現地ヒアリングでNECが足りない情報を埋めてくれました。ITの専門家ではない担当者の場合も、NECは専門的な用語を避け、わかりやすい聞き方でうまく情報を引き出してくれました」

と香川氏は言います。

また、リスクアセスメントは南海電鉄本社の重要システムに对象を絞って行いました。「項目ごとにスコア化し、できている部分、検討の余地がある部分がはっきりしました。組織や人などの体制面は自身で定量的に評価するのが難しいと感じていましたが、客観的に評価することができました。結果を踏まえて、CSIRTを立ち上げるなどの対策強化、セキュリティ規程の更新などを図っています」と南海システムソリューションズの原田 誠司氏は言います。

IT可視化もリスクアセスメントも、NECは成果物としてレポートを提出しました。同社は、その内容も高く評価しています。「いずれも単に結果を集計しただけでなく、調査の背景や目的、市場動向などの関連情報、なぜそのような評価になったのかの理由、そして南海グループが抱えている課題などがわかりやすくまとめられていました。今後の取り組みに向けたポイントまで

がロードマップに落とし込んだ形で提案されており、次の施策を検討する上で大きな助けになっています」と南海システムソリューションズの前田 智史氏は言います。

このように同社はNECの協力のもと、ガバナンスとセキュリティ強化に向けた重要な一歩を踏み出しました。歩みの先は、ITモダナイゼーションやグループ統合基盤の構築など、南海グループのDXに確実につながっています。

「グループ各社のIT資産やネットワーク構成など、NECと共に可視化した情報は、更新し続けなければ、今回の取り組みの意義が薄れてしまいます。取り組みを単発で終わらせないためにも、情報を一元管理できるシステムを構築し、グループ各社に負担をかけずに管理できるフローを確立したいですね。NECの知見や支援に期待しています」と長谷川氏は最後に強調しました。

お問い合わせは、下記へ

メールアドレス：promo@modern.jp.nec.com

URL：https://jpn.nec.com/dx/modernization/index.html

●本カタログに記載されている会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。  
●このカタログの内容は改良のため予告なしに仕様・デザインを変更することがありますのでご了承ください。  
●本製品の輸出（非居住者への役務提供等を含む）に際しては、外国為替及び外国貿易法等、関連する輸出管理法令等をご確認の上、必要な手続きをお取りください。ご不明な場合は、または輸出許可申請手続にあたり資料等が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの弊社営業拠点にご相談ください。



見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。



環境にやさしい植物油インキ  
を使用しています。